

住みたくなるまち日本一を目指して 「オールとみや」体制の協働のまちづくり

富谷市長 若生 裕俊



1 富谷市について

富谷市は宮城県のほぼ中央に位置し、仙台都市圏（6市7町1村）の居住機能を担うエリアとして、仙台市隣接の「位置的優位性」を活かし、多くのニュータウンが開発・分譲されてきました。

交通環境は、南北に国道4号と東北縦貫自動車道が通り、仙台北部道路が東北縦貫自動車道と富谷JCT（ジャンクション）で連結しています。仙台の中心部まで約18km、泉ICや大和ICまで約5km圏内という距離にあります。

富谷市は住環境整備とともに企業立地環境の整備を図りながら、「住みたくなるまち日本一」を目指して、まちづくりを進めています。

2 富谷市の由来・歴史

古くには市内に10の神社があったことから「十宮（とみや）」と呼んでいましたが、いつのころからか、縁起のよい「富谷」と改めて書くようになりました。その10社のうち現在は、日吉神社だけが残っています。

江戸時代には、仙台藩領土の南北を結ぶ奥州街道の要駅として、七北田・吉岡宿駅の中間に置かれた宿場として栄えました。当時、新街道沿いに新たに置かれた宿場町だったことから、「富谷新町」と呼ばれました。また、奥州街道の名所を詠んだ奥道中歌では、「国分の町よりここえ七北田よ、富谷茶飲んで味は吉岡」とうたわれ、銘茶・銘酒の特産地「奥州街道の宿場町富谷宿」として広く知られました。



自然と調和した富谷市の街並み

明治22年、富谷村ほか11村を合併して新しい富谷村が誕生し、昭和38年に「富谷町」として町制施行しました。町制当時の人口は5,091人、昭和46年ころから東向陽台、鷹乃杜といった団地開発が進み、平成24年には50,000人に到達。そして平成28年10月10日、単独では45年ぶりに宮城県14番目の市として市制施行しました。

近年は、企業誘致にも力を入れており、多くの企業の立地が実現しています。仙台北部道路富谷ICのフルジャンクション化や新たな公共交通システムの計画にも取り組みながら、就労の場としての充実も図り、「住みたくなるまち日本一」の実現に向けて市政運営を行っています。

3 まちづくりの方向性

平成28年10月10日に「富谷市」として新たにスタートし、今年で市制施行7周年を迎えます。市制施行後の新たなまちづくりのビジョンとして策定しました「富谷市総合計画・前期基本計画」の計画期間満了に伴い、引き続き、本市の将来像である「住みたくなるまち日本一」を目指した施策の展開を図るため、令和3年度から令和7年度を計画期間とする「富谷市総合計画・後期基本計画」を策定しました。

この計画は、少子高齢化などの社会情勢の変化に加え、「新型コロナウイルス感染症」を踏まえた新たな市政運営への転換や日本ユニセフ協会と連携して取り組む「子どもにやさしいまちづくり」の推進、2030年を目標とするSDGs (Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標))とまちづくりとの関連性などを新たな視点として加えた構成としています。

豊かな自然と住みやすい生活環境との調和を

図りながら、住んで良かった、住んでみたいと感じてもらえるまちづくりを進めています。

4 協働のまちづくり①

～男女共同参画・審議会女性割合～

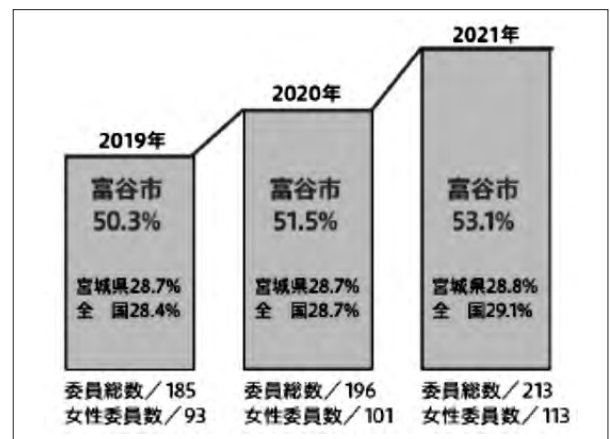
本市ではまちづくりの各分野における政策・方針決定過程への女性参画を積極的に推進しています。

内閣府が全国の全市区町村を対象に調査し公表している「市区町村女性参画状況見える化マップ」において、富谷市の審議会等委員に占める女性の割合53.1% (令和3年4月1日現在)が、全国1,741市区町村で第1位となりました。

「住みたくなるまち日本一」をまちづくりの将来像に掲げ、市民の皆様から様々な意見を伺い、施策につなげるため、女性、男性をバランスよく審議会等へ登用するよう、全庁を挙げて着実に取り組んでまいりました。

今後も、本市における女性参画の高い水準を維持し、性別にかかわらず、市民一人ひとりが多様な場で活躍できる、男女共同参画社会の実現に向けて取組みを進めてまいります。

■審議会などの委員に占める女性の割合
(地方自治法第202条の3に該当する委員)



5-1 協働のまちづくり②-1

～しんまち地区・とみやどの整備～

令和2年は、「富谷宿」が開宿して400年を迎える記念すべき年でした。新型コロナウイルス感染症の影響により延期とはなりましたが、令和3年5月に、開宿400年を記念し、宿場町の面影が残る「富谷しんまち地区(以下「しんまち地区」)」に、本市で初めてとなる観光交流施設「富谷宿観光交流ステーション(愛称「とみやど」)」をオープンさせました。「とみやど」は、地方創生拠点整備交付金を活用し、内ヶ崎作三郎(地元の偉人)の生家の醤油(しょうゆ)店をリノベーションして整備しました。ここは、内ヶ崎作三郎記念館を中心とした観光交流の拠点となる施設で、本市の起業塾である「富谷塾」の塾生が運営する飲食店や、富谷産はちみつなどを販売する店舗などがあります。

オープン初年度となる令和3年度は、来場者の年間目標となる10万人を5か月で達成し、年間の累計では、約15万6千人となるなど、大変多くの方々にご来場いただきました。令和4年度も、現時点で、約13万2千人の方々にご来場いただき、オープンからの累計来場者は、約28万8千人となり、29万人達成が目前に迫るなど、引き続き、多くの皆様にご来場いただい

ています。

この「とみやど」のオープンを契機に、新たな富谷の魅力を広く発信し、賑わいあふれる富谷となるよう、交流人口の拡大と地域経済の活性化を推進していきます。

さらに、令和4年10月10日の市制施行6周年には「とみやど」をメイン会場に、開宿400年を記念して3年ぶりとなる「富谷宿街道まつり」を開催し、多くの来場者が訪れた「しんまち地区」は、宿場の人々の往来を思わせるような賑わいを見せていました。

5-2 協働のまちづくり②-2

～しんまち活性化協議会・とみぶら・とみやど・荷宿～

本市ではこれまで、「しんまち地区」の地域活性化を目指し、新たな公共施設整備を平成29年度から進め、使われていなかった旧町役場庁舎をリノベーションした施設「富谷市まちづくり産業交流プラザ(TOMI+)」(以下「とみぶら」)を平成30年7月に開所し、起業創業支援のインキュベーションとシェアオフィスを有した地方創生のプラットフォーム化に取り組んできました。

併せて施設には、富谷の歴史や伝統、文化を



令和3年5月にオープンした富谷市の観光交流施設「富谷宿観光交流ステーション(愛称:とみやど)」

知ることができる民俗ギャラリーや地域シルバー人材センター、商工会を併設することで多様な人々が交流する場としての機能を持たせました。

加えて、私が塾長となり、富谷市をもっと元気にしたいという市民の想いを実現するための人材育成塾「富谷塾」をスタートさせています。令和4年度は5期目となり、146名が入塾しています。これまでには起業につなげたケースも多く、今後も支援を継続していきます。

この動きに併せて、市民主体型でのプロジェクトとして、「しんまち地区」の地域活性化プロジェクト「富谷しんまち活性化協議会」をスタートさせました。「しんまち地区」の市民が地域の環境美化活動や観光コンテンツの創出など自ら事業を進め、「とみぶら」、「とみやど」のハード面の整備と併せて、「しんまち地区」の情報発信や交流人口の拡大、地域経済の活性化を推進しています。

また、デジタル田園都市国家構想推進交付金・地方創生テレワークタイプを活用したテレワーク施設の整備にも着手しています。本事業は、かつて富谷宿の要衝(ようしょう)であった「荷宿」を改修し、地域交流の機能を備えたテレワーク施設を整備するものです。

今後は、宮城大学及び活性化協議会とも連携しながら、「しんまち地区」における新たな拠点としての役割やソフト面での運用についてご意見をいただくなど、地域と関係機関が一体となった取組みを展開し、整備を進めてまいります。

なお、富谷市と宮城大学は平成29年3月に連携協定を締結。富谷しんまち活性化プロジェクトにおいて、事業構想学群の風見正三副学長および佐々木秀之准教授をアドバイザーとし

て、地域資源を活かした住民参加型の新しいスタイルのまちづくりに取り組んできました。

富谷宿観光交流ステーション「とみやど」のオープンに併せて施設内に「宮城大学共創ラボ」を開設するなど、地域の歴史・文化・資源を活かしたコミュニティづくりや、地域の人々と共に課題解決ができる人材の育成を目指し継続的な取組みを進めています。この一連の活動は、日本環境共生学会から「活動賞」をいただくなど高く評価されています。



宿場の風情が残る「富谷しんまち地区」

6-1 特色①

～子どもにやさしいまちづくり・教育環境の充実～

本市は若い世帯が多く、子どもの数が多いということも特徴の一つです。富谷の大切な宝である子どもたちを、市民みんなで育てていきたいという思いのもと、「教育と子育て環境を誇るまちづくり」も進めています。

その一つとして、日本ユニセフ協会から「日本型子どもにやさしいまちモデル検証作業自治体」として委嘱を受け、平成30年11月20日(世界子どもの日)に「子どもにやさしいまちづくり」を宣言しました。

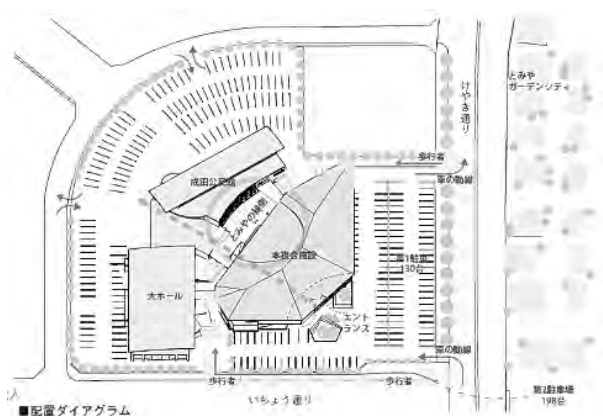
また、同年には、全ての市立幼稚園、小・中学校がユネスコスクールに加盟し、ESD（持続可能な開発のための教育）活動を推進し、次の時代を支えていく子どもたちがいきいきと学習し成長できるように、教育環境の質の向上に取り組んでいます。

本市には8つの小学校と5つの中学校がありますが、多様な学びの場としての環境整備にも力を入れています。東北初となる不登校特例校（文科省指定校）「富谷中学校 西成田教室」を令和4年4月に開設しました。

西成田教室は富谷中学校の分教室で、3学年定数で15人の生徒が学んでいます。校舎は、旧西成田小学校の校舎で、現在は西成田コミュニティセンターとして活用している建物の一部を学び舎としています。少人数での学習環境や



不登校特例校「富谷中学校 西成田教室」



市民図書館等複合施設整備イメージ図

総合的な学習の時間などに重点を置き、生徒たちの実態に合わせた学校生活を送れるように、地域の方々や関係者と連携しながら教育環境の整備を進めています。

生涯学習活動拠点の整備も進めています。市民アンケートにおいてもニーズの高かった市民図書館を、スイーツステーションと児童屋内遊戯施設との複合施設として整備するものです。現在、基本設計業務を進めており、市民ミーティングを随時開催しながら市民協働の取組みとして令和7年度の開館を目指しています。

6-2 特色②

～子どもにやさしいまちづくり・学校給食費無償化～

これまで本市における子育て、教育環境の整備についてご紹介してきましたが、令和5年度からの新たな取組みとして「学校給食費の無償化」を実施します。

昨今の歴史的な物価高騰により、子育て世帯の経済的な負担はますます増加しています。この現状を踏まえ、令和5年度から、市立全小中学校における学校給食費を完全無償化し、子育て世帯の経済的負担を大幅に軽減するほか、子どもにやさしいまちづくりの実践自治体として、さらなる推進につなげるものです。

現在、詳細な制度設計を進めています。本来は国の責任で進める施策であると考えていますので、他自治体と連携した要望活動等の取組みも併せて進めていきます。

7-1 協働のまちづくり③

～2050年カーボンニュートラルに向けて・デジタル田園都市～

国内外で2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロにする「脱炭素社会」実現への動きが加速しています。

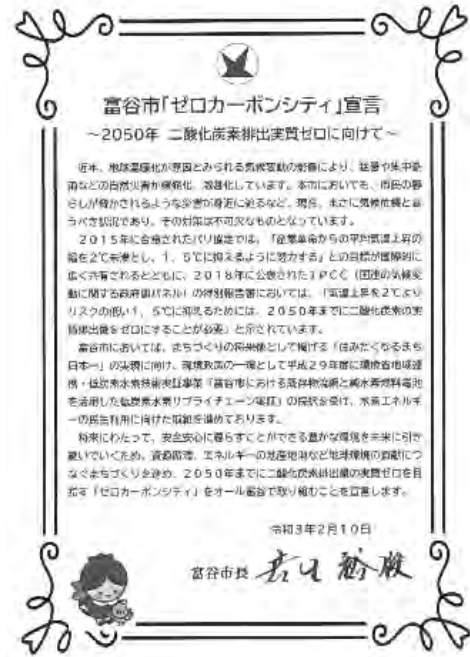
本市では、環境政策の一環として平成29年度に環境省地域連携・低炭素水素技術実証事業「富谷市における既存物流網と純水素燃料電池を活用した低炭素水素サプライチェーン実証」の採択を受け、水素エネルギーの民生利用に向けた取組みを現在も継続して進めています。

将来にわたり、安全安心に暮らすことができる豊かな環境を未来に引き継いでいくため、資源循環、エネルギーの地産地消など地球環境への貢献につなぐまちづくりを進め、2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指し、令和3年2月「ゼロカーボンシティ」を宣言しました。

また、令和3年度には「富谷市2050年ゼロカーボン戦略」を策定。脱炭素社会の実現に向けた各種の実証事業の実現、市民活動の行動変容につながる環境教育や普及啓発を進めています。

市民参加・市民協働の取組みとして、市民を対象に年4回開催している「とみやわくわくミーティング」があります。令和5年1月開催分では本市のゼロカーボンの取組みについて幅広くディスカッションを行いました。

今後、このような市民啓発を継続的に進めながら、国が推進しているデジタル田園都市国家構想と歩調を合わせた環境政策についても積極的に展開していく予定です。



「ゼロカーボンシティ」実現に向けた取組み



令和4年7月27日 東北初！「世界首長誓約／日本」に署名

7-2 特色③

～スイーツ・シティブランド～

本市の地方創生総合戦略では、新しい特産品のシャインマスカットやイチジク、はちみつを利用したスイーツ等による、とみやシティブランドの確立を掲げています。

新特産品のはちみつは、市役所庁舎の屋上に巣箱を設置し、養蜂により採取したものです。5年前からスタートした「とみやはちみつプロジェクト」により、市民の皆様にミツバチの世話をお願いし、毎年5月には採蜜式を行っています。自然豊かな住環境の中、市民協働の本市らしい取り組みです。

毎年開催している「とみやブルーベリースイーツフェア」は、市の特産品であるブルーベリーを市内のスイーツ店で味わうことができる人気のイベントです。

また、本市は江戸時代からお茶の産地として知られており、仙台藩祖伊達政宗公が京都の宇治から取り寄せた苗木をこの地で栽培させ、味のよい「富谷茶」として名を馳せていました。しかし、時代の推移とともに衰退し、幻の銘茶となってしまいましたが、「富谷茶復活プロジェクト」をスタートさせ、緑茶だけでなくスイーツの原料などの商品化に向けた6次産業化に取



ブルーベリーを使った「とみやスイーツ」

り組んでいます。様々な取り組みを通して「スイーツのまち」としてのシティブランドを確立させ、魅力ある富谷を発信してまいります。



富谷茶復活プロジェクト

8 住みたくなるまち日本一を目指して

本市は、おかげさまで各民間調査機関発表の自治体評価ランキングにおいて高い評価を得ています。

令和4年11月までに発表された、「住みこち」、「住み続けたい」、「街の幸福度」等の5つの自治体評価ランキングすべてにおいて、宮城県第1位となりました。各データや居住者満足度調査において、いずれも高い評価をいただいたものと受け止めています。

この結果には、今回ご紹介した本市の特徴的な市民協働を軸とした現在のまちづくりの方向性が、市民の皆様に評価されているものと感じています。

これまでご紹介してきた市民の皆様の「暮らしやすさ」をさらに高める取り組みについては、今後も重点的に推進し、「住みたくなるまち日本一」を目指し、住んでよかった、住み続けたい、住んでみたいと感じてもらえる「まちづくり」を市民の皆様と協働し進めていきます。

プロフィール (令和4年12月末現在)

- ①面積 49.18km²
- ②人口 52,399人
- ③世帯数 20,191世帯
- ④〔将来都市像〕
「住みたくなるまち 日本一」～100年間ひとが増え続けるまち 村から町へ 町から市へ～
- ⑤〔まちの特徴〕
昭和35年から人口増加、県内一15歳未満人口が多く高齢化率が低い、水素プロジェクト、プラチナシティ認定、ゼロカーボンシティ宣言
- ⑥〔特産品〕
ブルーベリー、はちみつ、地酒、シャインマスカット、イチジク
- ⑦〔観光〕
富谷宿観光交流ステーション(とみやど)、大亀山森林公園、ブルーベリーつみとり農園、大黒澤苑
- ⑧〔イベント〕
とみやブルーベリースイーツフェア、とみやマーチングフェスティバル、富谷宿街道まつり、秋のとみやスイーツフェア



富谷市へのアクセスは以下のホームページよりご覧ください。
<https://www.tomiya-city.miyagi.jp/access.html>